

<観点別評価の事例>

①コンピュータを利用した会計処理に関心を持ち、自分から進んで表計算ソフトを使って考えようとする。

【関心・意欲・態度】(行動観察)

(A) 十分に満足できる	(B) おおむね満足できる	(C) 努力を要する(生徒への手だて)
ワークシートの手順をもとに、各種の財務諸表の作成など、自ら課題を設定し、意欲的に課題に取り組んでいる。	コンピュータを利用した会計処理に関心を持ち、自分から進んで表計算ソフトを使って処理しようとする。	データの入力方法や財務諸表の作成手順など、手順を指導し、関心をもてるよう支援する。

②手作業の場合とコンピュータを使った場合において、的確に会計処理した上で、その特徴の違いを考えることができる。

【思考・判断】(ワークシート)

(A) 十分に満足できる	(B) おおむね満足できる	(C) 努力を要する(生徒への手だて)
手作業の場合とコンピュータを使った場合において、的確に会計処理した上で、その特徴の違いを考え、さらにどんな点に留意すべきか、理解できる。	手作業の場合とコンピュータを使った場合において、的確に会計処理した上で、その特徴の違いを考えることができる。	手作業の場合とコンピュータを使った場合のそれぞれについて、利点や特徴を把握できるよう、支援する。

(この評価については次ページの資料を参照して下さい。)

③コンピュータを使った会計処理について、その処理の流れを理解し、表計算ソフトを使って確認できる。

【技能・表現】(ソフトウェア)

(A) 十分に満足できる	(B) おおむね満足できる	(C) 努力を要する(生徒への手だて)
表計算ソフトウェアによる会計処理の流れを理解している。また仕訳等、的確なデータ入力が行われ、ワークシートが完成している。	表計算ソフトウェアを使って、入力が行われ、ワークシートが完成している。(未入力の箇所がある)	表計算ソフトウェアのワークシート上に空欄が多く、仕訳から順を追って考え、入力できるよう支援する。

< 実際の評価例（一部・必要な箇所のみ抜粋） >
 (A) と評価したワークシート

問4. 損益計算書を作成しなさい。

損益計算書				
勘定科目	前月繰越	当月借方	当月貸方	当期残高
【売上高】				
売上高	40,795,000		995,000	41,790,000
売上高合計	40,795,000		995,000	41,790,000
【売上原価】				
期首商品棚卸高	0			
仕入高	26,865,000	600,000		27,465,000
合計	26,865,000	600,000		27,465,000
期末商品棚卸高	0	300,000		300,000
売上原価	26,865,000	600,000	300,000	27,165,000
売上総利益	13,930,000			14,625,000

問5. 貸借対照表を作成しなさい。

貸借対照表				
勘定科目	前月繰越	当月借方	当月貸方	当期残高
【現金・預金】				
現金	542,000	1,105,000	30,000	1,617,000
当座赤坂	3,240,000	1,000,000	1,100,000	3,140,000
当座麻布	2,252,600		600,000	1,652,600
現金・預金合計	6,034,600	2,105,000	1,730,000	6,409,600
【売上債権】				
受取手形	3,200,000	400,000	400,000	3,200,000
売掛金	13,340,000	45,000		13,385,000
売上債権合計	16,540,000	445,000	400,000	16,585,000
【棚卸資産】				
商品	0	300,000		300,000
棚卸資産合計	0	300,000		300,000

それぞれの場合の特徴だけでなく、留意点や今後の簿記学習の必要性について述べられている。また、手作業による財務諸表が完成している。

手作業による会計処理を行ってみたいの感想を書いてみよう！

- ・仕訳を基本定書記入するときに見落としがちなところ
- ・どんな処理をしているのか把握できるしその処理の意味が理解できる

手作業による会計処理の特徴はなんだろうか？

- ・取引の一本の流れ（基本の流れ）が分かる
- ・時間がかかる

コンピュータを使った会計処理の感想を書いてみよう！

- ・処理のスピードが早い。また、仕訳が手に入るだけではB/Cの作り方も見方が分からない。
- ・なぜこのように基本定書が定まるのかとか、今自分が何の処理をしているのか分からない。

コンピュータを使った会計処理の特徴はなんだろうか？

- ・仕訳を入力するだけで、勘定記入や、B/C、PL作成まで簡単にできる。
- ・言葉で問題をすることがない。仕訳を間違えてしまうと、合計も全て違ってしまうし、これを間違えてしまったらコンピュータでは見つけられない。

(B) と評価したワークシート

手作業による会計処理を行ってみたいの感想を書いてみよう！

- ・仕訳の意味が分からなくなる
- ・手間がかかる

手作業による会計処理の特徴はなんだろうか？

- ・コンピュータと違い、合計や残高等も一つ一つ計算しなくてはならない
- ・単純な計算ミスのほか、数値自体が違っているのがおぼろげにわかる

コンピュータを使った会計処理の感想を書いてみよう！

- ・コードと金額を入力するだけで仕訳や残高試算表ができて、とても楽だ。
- ・コードから選ぶだけなので勘定科目が間違っても大丈夫だと思えた。

コンピュータを使った会計処理の特徴はなんだろうか？

- ・金額の間違いがつかない。取引を金額だけ入力すればいいので、仕訳を切り替える必要はない。
- ・一つを直すだけで全部を直すことができる

それぞれの場合の特徴のみが記されている。

【成果】

- ・常に生徒の行動・思考を「評価する」という意識が自分の中にあるため、授業等における生徒の行動観察が以前よりも注意深くできるようになった。
- ・学習内容がある程度理解できてはいるが、考査等になると力を十分に発揮できない生徒もいる。様々な観点や方法によって生徒を評価するので、生徒の努力の過程が成績に今まで以上に反映されやすい。

【課題】

- ・4つの観点について評価を行う場合、全観点からの評価は難しいため、優先的に評価の観点を選択することになる。小単元や時間数によっては、全く評価しない観点ができてしまうことになる。
- ・かつてのような「問題集提出」や「小テスト」「定期考査」といった評価付けとは違い、毎時間、評価を行うことになるので、当然のことながら授業に出席することが前提となる。欠席する生徒がいた場合、その生徒は評価が「なし」、もしくは「最低ランク」での評価となる可能性が高いため、欠席者に対する評価方法について、学校ごとに統一的な見解が必要である。
- ・あらかじめ評価を考えて、ワークシート等を作成しておかないと、単に授業を実践しただけとなり、そこから得られた結果を次のステップに生かすことが難しくなる。授業にのぞむ前の段階から、授業後の評価に至るまで、一連の指導の流れを考え、実践していくことが大切である。

【授業の様子】



生徒がワークシート上に書き記した仕訳（データ）をもとに、該当箇所に入力をしていくところ。



画面には、表計算ソフトウェアのワークシート上にデータを入力し、マクロを実行させた後の処理結果が表示されている。